

2019年度(令和元年度) 大濠中学校・高等学校の教育目標

令和元年5月10日 目標設定

自己評価

<p>【建学の精神】 本校は福岡外事専門学校附属大濠中学校として、1948(昭和23)年に設立された。敗戦直後のこと、国土は荒廃し、思想や価値観も混乱をきわめていた。日本の復興には有為の青年を教育する私立学校が必要だとして準備が進められた。 旧神社庁の古い建物を借用し、補修に補修を重ねて大濠中学校が開校に漕ぎ着けた。初代校長に就任した井口末吉校長は、241名の新生徒に向かって「人材の育成は校舎にあらず教師にあり。道徳教育を根幹として教育を断行する」と宣言した。</p> <p>【教育方針(高等学校)】 1 日本人としての自覚と誇りを持たせる。 2 道徳教育を通じて人間性を高める。 3 広く自主活動を促し、能力を啓発する。</p> <p>【教育方針(中学校)】 1 国際的な視野を養い、適正な判断力と自主性を発揮する。 2 高い知性と豊かな感性を培い、自由で伸び伸びとした活動をする。 3 たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する。</p> <p>【校訓】 一 明朗闊達 一 自重敬他 一 研学錬体 一 進取創業</p>	
<p>【2019(令和元)年度の育成目標】 1 「自立」 ー自主・自律の自覚と行動ー 2 「傾聴」 ーコミュニケーションの基盤ー 3 「つなぐ」 ー「学び」のダイナミズムー</p> <p>【重点評価項目】 1 授業改善(「主体的・対話的で深い学び」の促進) 2 進路指導・キャリア教育の研究・実践 3 生活指導 4 学級経営 5 学校行事・生徒会活動 6 部活動(クラブ活動) 7 その他の校務分掌(具体的に)</p>	
<p>教科</p>	
国語	<p>全体目標 ○生徒が能動的に学ぶように、主体性を喚起する(自立)。 ○生徒が互いに発表し合い評価し合う、協働的な学習の場を構築する(傾聴)。 ○多様な文章を読み考察する中で、既習内容や他教科の学習内容、さらに社会との関連を見出し、広く深い学びを促す(つなぐ)。</p> <p>1. 古文・漢文の読解を通して、日本の伝統文化や価値観を理解させる。 2. 評論文の読解を通して、現代社会が抱えている課題に気づかせ、問題意識を喚起し、考察を深めさせる。 3. 近代以降の小説その他の文学作品に触れ、その芸術性を味わうことを通して思考力・想像力を養成し、読書に対する意欲を喚起する。 4. 国語学習および他教科の学習を通して得た価値観や知識を関連づけ、広汎で柔軟な知を構築させる。さらに、互いの考察を発表し合う場を設けてコミュニケーション能力を養成する。</p> <p>中学校 学年目標 (中学1年)現代文の読解を通して論理的な思考力を身につけさせる。 (中学2年)日本語の語彙力を身につけさせ、様々な文学作品の読解を通して日本の伝統的な文化を理解させる。 (中学3年)対話を通して自己を表現し、他者と互いに評価し合う中で言語力に裏付けられたコミュニケーション能力を身につけさせる。</p> <p>高等学校 学年目標 (高校1年)現代文・古典の読解に必要な知識を習得させるとともに、能動的な学びの意識と習慣を身につけさせる。 (高校2年)現代文・古典の読解の基盤となる知識を確認するとともに、協働的な学びを交えながら、テキストを読み解くための技術を修得させる。 (高校3年)現代文・古典に対する幅広い教養や高度な読解力を身につけさせるとともに、協働的な学びを実践してコミュニケーション能力を涵養する。</p>
数学	<p>進学コース・スーパー進学コース</p> <p>全体目標 数学的活動(身近な事象を取り上げ、それを数学化し、数学的な課題を設定するなどの活動)を通して創造性の基礎(基礎的・基本的な知識・技能の習得を基にして、多面的にもものを見る力や論理的に考える力)を培う。多面的にもものを見たり、論理性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え納得したりすることで育成される学習に対する「自主・自律の自覚と行動」、論理的な思考力、想像力、直観力を身につけ、人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、生涯に渡って能動的に学び続けていく態度、すなわち「つなぐ」態度を育てる。</p> <p>高校1年 数学的に考察・処理し、その過程で見出したいろいろな数学的性質を論理的に系統化する活動を行う。 予習・授業・復習の基本的な学習スタイルを確立させる。また、各コースごとに計画的な課題を用いて、全員が基礎学力を身に付けられるように導く。 補習授業が始まってからの授業との関連や学習方法を指導する。</p> <p>高校2年 数学的知識を構成するに至るまでの思考過程を振り返ったり、構成した数学的知識の意味を考察の対象となった当初の身近な事象に戻って考える活動を行う。 文系:数学Ⅱ・Bの基礎的な学習内容を全員が身につけられるように、各コースごと計画的な課題を用いて理解度の把握や演習量の確保を図る。 理系:数学Ⅱ・Bの内容を早めに終えて、出来るだけ早く数学Ⅲの内容に取り組めるようにする。 また、各コースごと計画的な課題を用いて、基礎学力の定着と演習量の確保を図るとともに自学の意識を高めていく。</p> <p>高校3年 純粋な数学の問題から新しい概念の導入や理論の拡張が得られるような演習を行う。 文系:演習をこなすことにより応用力をつけ、入試に向けての実力を付けさせる。 理系:数学Ⅲの内容を早めに終え、演習時間をつくることにより、入試に向けての実力を付けさせる。</p> <p>中高一貫コース</p> <p>全体目標 数学的活動(身近な事象を取り上げ、それを数学化し、数学的な課題を設定するなどの活動)を通して創造性の基礎(基礎的・基本的な知識・技能の習得を基にして、多面的にもものを見る力や論理的に考える力)を培う。多面的にもものを見たり、論理性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え納得したりすることで育成される学習に対する「自主・自律の自覚と行動」、論理的な思考力、想像力、直観力を身につけ、人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、生涯に渡って能動的に学び続けていく態度、すなわち「つなぐ」態度を育てる。</p> <p>中学1, 2年 身近な事象を取り上げ、それを数学化し、数学的な課題を設定する活動を行う。 中学の内容を把握させるとともに、理解し問題が解けるように指導していく。 高校数学へのステップとして予習復習・ノートの書き方等、丁寧に指導する。 数学嫌いを作らず、問題を読み、理解し、解答することが楽しくなるような生徒を育てる。</p> <p>中学3年 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして、数学的に考察・処理する活動を行う。 高校の授業の先取りで数学Ⅰ・Aを履修するので、しっかり理解させ、基礎力を定着させる。 また、演習をすることによって応用力をしっかりと身につけさせる。</p> <p>高校1年 数学的に考察・処理し、その過程で見出したいろいろな数学的性質を論理的に系統化する活動を行う。 予習・授業・復習の基本的な学習スタイルを確立させる。また、計画的な課題を用いて、全員が基礎学力を身に付けられるように導く。 数学的思考力の養成に必要な課題および演習を行う。</p> <p>高校2年 数学的知識を構成するに至るまでの思考過程を振り返ったり、構成した数学的知識の意味を考察の対象となった当初の身近な事象に戻って考える活動を行う。 文系:入試対策演習へ向けて、各分野の確認を行い、基礎力の定着をさせる。 理系:数学Ⅲの内容の定着を図り、入試を意識した演習を中心として実践力をつける。</p> <p>高校3年 純粋な数学の問題から新しい概念の導入や理論の拡張が得られるような演習を行う。 文系:入試に向けて実戦演習を増やし、受験に備える。 理系:数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲの更なる定着を図るとともに、受験数学の記述力をつけるための実戦演習を増やす。</p>

英語	全体目標	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションの基盤となる「傾聴」を大切にして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、読む、書く、聞く、話すなどの言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	
	中学 学年目標	中学1年：英語学習への積極的な取り組み姿勢を養い、語彙・文法・音声面の基礎力を全生徒に身につけさせ、2年次における発展的学習に向けての土台を作る。 中学2年：中1で学んだ知識の定着と深化を図り、読む・書く・聞く・話す力にさらに磨きをかけ、コミュニケーション力の育成につなげていく。 中学3年：高校基礎レベルの語彙力・文法力・読解力・作文力の定着と、身近なことだけでなく社会問題に関しても自分の意見を表現する力を養う。	
	高校 学年目標	高校1年：予習・授業・復習のサイクルと語彙テスト・文法テストを通して、英検準2級レベル程度の読解力・表現力を目指す。 高校2年：大学入試に対応できる語彙力・文法力・読解力・作文力、リスニング力を養成し、英検2級レベル程度の英語力で自分の考えを発表・表現できるようにすることを目指す。 高校3年：リスニングを含めた入試問題中心の実践形式の授業を展開し、論理的思考力を重視する入試にも対応できる実力をつける。	
	評価指標	A. 評価項目 1. 語彙・文法の学習を通して、基礎的な学力を向上させる。 2. 「読むこと」の能力を伸ばす。 3. 「聞き取る」能力を伸ばす。 4. 「書く」能力を伸ばす。 5. 「話す」能力を伸ばす。 6. 論理的思考力や表現力を伸ばす。 B. 評価項目達成のための具体策(実施内容・方法など) 1. ①課題や文法問題集などの学習を通じ、基礎力を定着させる。 ②英単語テストなどを実施し動機付けをはかる。 2. 多様な音読活動を取り入れたり、協同で考える時間を設けたりしながら、授業方法を工夫する。 3. リスニング教材等を用い(中学ではALTを活用し)、英語の音に慣れさせる。 4. テーマを与え、英語で書かせる。 5. 課題英文を暗記させ言わせる。 6. 定期考査や実力考査において論理的思考力を問う問題を出題するよう努力する。	
理科 中学	全体目標	理科の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 ①自然科学分野への興味関心を持ち、生命尊重の態度を有する人格。(実世界への関心、その中での自己のあり方(自立・つなぐ)) ②科学的な物事の捉え方や価値観を身につけることに積極的に取り組む態度を有する人格。(科学を学ぶ姿勢の確立(自立・傾聴)) ③ディスカッションを通して互いの考えを傾聴し、自己の学びを高める態度を有する人格。(傾聴)	
	指導目標	①生徒一人一人にとって魅力ある授業展開を目指す。(実世界への関心、その中での自己のあり方(自立・つなぐ)) ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 ②できるだけ多くの「モノ」に触れさせる。(実験等を通じ興味関心を促すとともに、互いの考えに耳を傾ける姿勢を育てる(自立・傾聴)) ○学習効果を十分に吟味した生徒実験・演習の実施 ○個々の学習内容と日常生活との関わりを意識した教科指導の実践 ○実験器具等の基本的な扱い方や操作の習得の徹底 ○実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 ③高等学校以降の学習を見据えた指導を行う。(自立・つなぐ) ○中学校理科から高等学校理科、大学入試へのつながりをイメージさせる指導 ○実社会で起こっている諸事象に関する考察の指導	
理科 高校	全体目標	コースの選択に応じた選択科目(物理・化学・生物・地学)の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 ①自然科学分野への畏怖の念と、生命尊重の態度を有する人格。(実世界への関心、その中での自己のあり方(自立・つなぐ)) ②様々な自然・科学現象に積極的に取り組む態度を有する人格。(科学を学ぶ姿勢の確立(自立・傾聴)) ③自然科学的な物事の捉え方や価値観に基づいた諸問題の解決や社会発展を目指す態度を有する人格。(科学を学ぶ姿勢の確立(自立・傾聴・つなぐ))	
	指導目標	①生徒一人一人にとって「わかりやすく、魅力ある」授業展開を目指す。(実世界と結びついてゆく学習内容の精選(つなぐ)、およびディスカッションを通じた深い学びの促進(傾聴・自立)) ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 ○学習効果を十分に考慮した生徒実験・演習の実施 ○実験器具等の基本操作習得や実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 ②進路実現に繋がる生徒一人一人の意識向上を目指す。(実世界への関心、その中での自己のあり方(自立・つなぐ)) ○模擬試験等の事前指導や事後指導、大学入試の過去問題を使っての発展的な学習指導 ○個々の学習内容と日常生活や最先端の研究との関わりを意識した教科指導の実践 ○現象について議論し、生徒間での深い考察を促進 ○将来の職業選択を意識した実社会で起こっている諸事象に関する考察を促進 ○生徒の進路希望の把握と個別指導への反映	
地歴 公民	全体の教科目標	1. 地理的認識や歴史的認識を身につけさせ、地理的思考力や歴史的思考力を培い、我が国の国土や歴史を理解するとともに国際的な視野をもった人格を育成する。 2. 人間としてのあり方や生き方、政治・経済の基本的な見方や考え方を身につけさせ、社会全体の福祉の向上に寄与できる人格を育成する。	
	中学の目標	1. 地理分野・歴史分野・公民分野の基本的知識を身につけさせ、社会に対する興味・関心を持たせる。 2. 資料を活用する学習を重視するとともに、課題を解決する能力を培い、主体的な学習を促す。	
	高校の目標	1. 地理分野・歴史分野・公民分野の基本的知識を身につけさせ、受験に対する対応力を高める。 2. 主体的な学習に取り組めるように、地理的思考力、歴史的思考力、政治・経済の基本的な考え方を培う。	
	具体的な取り組み	1. 関連した様々な知識をつなぎながら思考し判断し表現する力を育成するために、教材選択や発問の工夫、授業形態の工夫などの実践を通じて授業改善を推進する。 2. 定期考査や実力考査などで、「思考力」「判断力」「表現力」を問う問題を作成する。 3. 本校生徒に相応しい学力がどのようなものであるかを考えて、「思考力」「判断力」「表現力」を問う中学入試問題、高校入試問題を作成する。	
保健 体育	基本的 ねらい	学校の育成目標である「自立」「傾聴」「つなぐ」を目標に、子供たちの学校における体育やスポーツ活動に興味を持たせ、運動を実践する行動力を養うとともに、体力の向上を図る。また、授業の中で社会の規範と礼節を尊び、自らの力で考え判断し、責任をもって行動できる自立した人間を育てる。	
	体育実技	(目標) 中学校…基本的な生活習慣を身につけさせると同時に、集団生活の基礎を指導する。年間カリキュラムに沿って、基本的な身体活動を中心に運動の楽しさや喜びを味わい、たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する能力や態度を養わせる。 高校…心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解を深め、個性豊かな潤いある心身ともに健康な自立した人間を育成する。 (具体的な取り組み) 中学校、高校を通じ新体力テスト(中学)、運動能力テスト(高校)を実施する。さらにその結果を体力測定シートを用いて分析し、発達段階に応じた指導を行う。また、安全面については十分に配慮する。	
	保健	(目標) 中学校…心身の健康および保持増進の実践力を育成するため、単なる暗記ではなく、高い知性と豊かな感性を培い、男女が共に協力しながら適切な意思決定や行動選択及び環境づくりを行う能力を育てる。 高校…保健の授業を通して、個人生活及び社会生活における様々な事柄を正しく理解し、男女が共に協力し合い生活する社会の意義を見つめ、適切な意思決定や行動選択を行うことができる能力を育て、自立した人間を育成する。 (具体的な取り組み) 中学校においては、板書等を各自のノートに記入させ、毎学期の期末考査前には全員提出させる。高校については、保健ノートを単元ごとに整理させ、毎学期の期末考査前には全員提出させる。	
芸術	中学目標	音楽…自ら積極的に音楽活動に取り組む中で(自立)、生徒お互いが相手の意見を尊重しながらも自分の意見を述べ、様々な考え方があつてを学び(傾聴)、そこから音楽へのさらに深い理解へと導く。また音楽が個人の表現のみにとどまるものではなく、社会に大きな影響を与えたり、国境を越えた人と人との相互理解にも貢献していることを学ばせる(つなぐ)。 美術…制作のための技術を習得させ、表現方法を工夫させて、独創的な作品作りを目指す(自立)。また、様々な美術作品や生徒作品についてお互い批評し合うことで、他の意見をよく聴き、自分の意見も堂々と発表できる力を身につけさせる(傾聴)。さらに美術が人の生活の中に深くかかわり、生きる力となっている側面にも気づかせることで(つなぐ)、授業への意欲を高めさせながら、美術の深さや素晴らしさを再認識させる。	
	高校目標	・自分の個性を自らが十分認識した上で、自己を表現するために必要な技術・技巧を身につけさせる(自立)。 ・その人の個性に基づいて表現された作品を真摯に干渉し、批評することが相手を認めることにつながることを前提として、相手の意見を聞き自らの意見も発表し合う中で芸術作品をより深く理解し味わえる知識と能力を身につけさせる(傾聴)。 ・音楽・美術・書道の3教科とも人々の生活の中の様々な場面に関わっており、ただ単に個人が表現した「作品」にとどまるものではない。芸術は人々が心豊かに生きていくために非常に大切なものである(つなぐ)ことをしっかりと生徒に認識させ、生涯にわたって芸術を愛好し、味わい続ける力を身につけさせる。	

技術 家庭	目標	男女共生社会を構築する上でキイとなる教科であり、人の一生という射程の中で、生活の様々な領域を対象とする。このような教科の特性に基づき、「キャリア教育」の視点を重視し、知育偏重に陥ることなく総合的な視野と社会に対して実践的に働きかける姿勢・資質を育むことを目的に、家庭・技術それぞれに次の目標を掲げる。	
	家庭	育成目標「自立」 1. 人の一生と消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技能を生かし、家族や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	
	技術	「自立」: 技術の習得を通じて自立的生活者の育成をめざす。 木材加工実習や電気工作等の実践的なものづくり体験やコンピュータ実習を通して、生活に必要な知識及び技術の習得を目指すとともに、技術を適切に評価し活用する能力を育てる。	
情報	目標	1. 情報化に主体的に対応できる能力、及び情報社会に積極的に参画する態度を育成する。(自立) 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集・処理・表現する基礎的な知識・技能の習得・定着を図る。(自立・つなぐ) 3. 情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報セキュリティや個人の責任など情報モラルについて主体的に判断できる態度・資質を養成する。(傾聴)	
学年			
中学	中学目標	1. 自立 (1) 生徒自らに備わる潜在能力を十分に理解、その伸張のために日々の努力を怠らず、学習活動に励むことができるよう、支援体制を構築していく。困難に出くわしても、屈することなく一つのことを最後までやり抜く力(Grit)、そして立ち直る力(Resilience)の大切さに気付かせる。粘り強さを身につけ、人間的成長と学力の向上を目指すべく、ファシリテーターとして生徒達に寄り添い、その役割を果たしていく。 (2) 学校を真正な学びを実践し、健全な人間成長を遂げる場所と位置づけ、一人ひとりのつまづきを見逃さず、安全・安心な環境作りを保証していく。 (3) ふり返りを通して、メタ認知・非認知能力を高めていくために、生徒たちに努力を怠らず日々努力を続けることの重要性を理解させ、HRや授業実践の中で粘り強く関わり続けていく。 2. 傾聴 (1) 学校、特に一貫教育に課された社会的責務を十分に理解し、生徒の声に耳を傾け、生徒とつながり、聞き合う関係の構築に努め、学校を安心・安全な空間にすべく努力していく。すべての生徒の発言と多様性をクラス全員で尊重できる学級作り、人間作りにも努めていく。 (2) 生徒たちが単に話し合い、学び合いに終始することなく、聞き合う関係づくりを意識できるように、授業を組み立てていく。そのために、常に教師自らふり返り(リフレクション)を通して授業の質の向上を目指し、授業をデザインしていく。 (3) 生徒との適度な距離感を意識しつつ、どのような関わり、関係性を持つことが生徒たちの成長に寄与・貢献するのかを意識し、信頼関係を構築していく。その中で生徒たちの自己効力感や自己有用感を高めていく。同時に生徒の主体性と、授業に対するエンゲージメントを高め、深い学びへとつなげていく。 3. つなぐ (1) 既存の知識と新しく学ぶ知識との融合・統合を授業実践の中で意識し、新しい文脈の中で活用できる生きた知識へとつないでいく。授業や総合的な学習・学内外での学び、課外活動、家庭学習を有機的につなぎ、社会の中に生きる人間としての存在を意識させ、積極的に活動できるように支援していく。 (2) 新しい学力観を意識し、生徒が相互に聞き合う関係の中で、真正な学びを通して考え、次の段階へつなぐ、発信できる能力を培うべく、協同的・探究的な学びを意識・実践を通して、教科の本質に迫る学びを実現させていく。 (3) ICEモデル(Idea/Connection/Extension)を意識させ、生きた知識の獲得につなげるべく、授業をデザインし、過去・現在・未来の学びへの関連性(Relevance)を意識させる。	
	学年目標	1年生: 基本的な生活習慣を確立させ、「自他」を大切にすることを養うことで、安心・安全な学校生活を送れるようにする。細やかな指導を心掛け、勉学に向かう姿勢を育成する。 2年生: 学校生活や道徳教育を通して、自立的に行動できる力を育て、お互いが尊重すべき「個」であることを自覚させ、公共のマナーを遵守する精神を養う。 3年生: 今年度の自分自身を前年度までの成果の延長線上に位置づけ、将来の進路を見据えて活動する。「社会の中の私」であることを意識して、他者との協働を心掛ける。自らの成長を促すものごとに積極的に挑戦し、自らの能力を多面的に向上させることを目指す。	
高校 1年	生徒指導 生活指導	①規則正しい生活習慣の確立(→自立) ・自宅では「起床時間」、「自宅学習の時間」、「就寝時間」の固定化を指導 ・校内では時制を意識した行動の常態化を指導 ②所持品の管理、整理整頓の常態化(→自立) ・机上・机の中に荷物を放置させない指導 ・きめ細かい、丁寧な清掃指導 ③いじめの無い生徒集団の構築(→傾聴、自立) ・互いの違いを認め合い、互いを助け合い、互いに高め合う指導 ④規範意識の涵養(→傾聴、自立) ・集団の中での責任ある言動を考えさせ、実践させる指導	
	学習指導	①自宅学習の習慣化(→自立、つなぐ) ・「自宅学習の時間」の固定化を指導 ②学習への積極的な態度や自己肯定感の育成(→傾聴、自立) ・つまづきや失敗の原因、改善方法を考えさせる指導 ・成功体験を通して、意識や努力が可能性を広げること考えさせる指導 ③計画的な学習の実践(→つなぐ) ・定期考査や実力考査等に向けた学習計画の指導 ・外部模試、資格試験等の活用を指導	
	進路指導	①自己実現のための出発点の形成(→自立、つなぐ) ・ポートフォリオを通じた自己分析と目標設定の指導 ②文理選択を起点とした進路意識の高揚(→自立、つなぐ) ・年間を通して計画的に行う個人面談を通して個々の状況に応じた丁寧な指導 ・オープンキャンパスへの参加を指導	
高校 2年	育成目標	○「自立」 志望大学・学部を自ら決定し、志望理由書を作成する。 ○「傾聴」 集会時の集合時間と聞く態度は良好なので継続する。 ○「つなぐ」 年6回の「学習の記録」に基づいて担任とミニ面談を重ねる。 3つの育成目標を、以下の指導に反映する。	
	生徒指導・ 生活指導	◎「学校は勉強するところ」。落ち着いた学習できる環境を徹底する。(自立) ○校則違反は生徒指導票の記入を義務付ける。ルールやマナーを守る意識を高める。(自立) ○不登校は連続3日で家庭訪問を行い、学年主任に報告する。(つなぐ)	
	学習指導	◎ポートフォリオを継続し、国公立3割の推薦枠出願に向けて備える。(自立) ○10連休を含む長期休暇の課題バランスを、教科間で図る。(つなぐ) ○7月模試で基礎固めを完成する。各コースの特色に応じた目標に取り組む。(自立)	
	進学指導	◎1年次の文理選択を踏まえ、担任は志望大学・学部学科選択の支援をする。(傾聴) ○「総合的な探究の時間」で、グループディスカッションや表現力の指導をする。(自立・傾聴) ○模試や外部検定を活用しながら、生徒に最新情報を提供する。(つなぐ)	

高校3年	育成目標	「自立」～自主・自律の自覚と行動～	
	生徒指導・生活指導	◎「服装頭髪検査」を生活面の指導の最重要事項の一つと位置づけ、高3担任者全員で丁寧な指導を行うと共に、「自主・自律の自覚と行動」を促していく。 ○基本的生活習慣を確立 ・朝補習、授業開始からの遅刻・欠席指導をはじめとする時間の厳守。 ○学習環境を整備 ・生活環境の整備、教室の整備及び美化に努めさせる。 ○問題行動の予防・防止 ・問題行動に関する諸注意を徹底する。昼休みの校内巡視。公共マナーに対する意識の喚起。挨拶の励行。	
	学習指導	◎大学受験に向けて「自立」した学習スタイルを更に深化させる。 ○自らが学ぶ姿勢の確立 ・家庭学習としての予習・復習の習慣・方法を指導し、授業に対しても主体的に取り組ませる。 ○向上心の育成 ・小テスト、定期考査、模試に対する意識の向上を図る。	
	進学指導	◎「後悔しない大学・学部・学科選択」、「最後まで諦めない第1志望」実現に向けて、「自立」した進路選択を促すために学年ができる限りの進学情報を提供する。 ○進路の明確な目標を確立させ、意識を高めさせる。また、志望進路調査などの内容に基づいて面談等を行い、個別に進路意識の向上を図る。 ○外部模試・外部進路説明会を有効に活用し、生徒の進路決定に様々な働きかけを提供していく。	
校務分掌			
企画	広報	「受験生」と「大濠中学校・高等学校」を「つなぐ」 ・受験生やその保護者、中学校や塾などと信頼関係を築くことを通じて、生徒募集活動を促進する。 ・在校生の充実した生活を感じられる広報活動を展開する。	
	進路指導	全学年間進路指導目標…「キャリア教育」を意識した学級担任によるキメ細かい進路指導の確立 全学年間目標に基づく各学年の目標 【中高一貫コース】 中学1年…様々な職業の存在を知る。 中学2年…様々な職業の存在を知って、資格、認定制度の存在を知る。 中学3年…職業と学部学科の関連を知り、高校2年からの文理コースを確認する。 高校1年…大学の学部学科と2次からの文理コース選択を決定する。 高校2年…大学受験校を決定し、大学別入試形態に備える。 高校3年…大学入試に備えた徹底した準備を実践する。 【高校コース】 高校1年…大学の学部学科から職業への系譜を辿る。 高校2年…個々が希望する職業に就くために適した大学、学部学科を調べる。 高校3年…大学受験校を決定し、大学別入試形態に備える。 ※以上の目標について、自立(自主活動の支援)、傾聴(進学情報の共有)、つなぐ(情報提供の場の設定)観点から評価する。	
	国際交流	多様な機会を活用して国際交流を推進し、国際理解を啓発する。 研修意欲の向上(自立)、注意・指示の徹底(傾聴)、研修機会・情報の提供(つなぐ)に努める。	
総務課	人権・同和教育	育成目標「自立」～自主・自律の自覚と行動～ ・年間の特設授業などの人権・同和教育を通じて、「自主・自律」の自覚や行動を促し、同和問題をはじめとするあらゆる人権侵害に関する知的理解を深めさせ、人権感覚を養い、自他ともに尊重する態度や実践的な行動力を育成する。 ・人権意識の高揚と人権侵害・差別事象の防止のための日常的な対策活動を行う(いじめのいじめの掃、学習権の保障、ハラスメント発言の防止など)。	
	防災・危機管理	・防災・危機管理マニュアルの整備。 ・防災訓練を通じて、防災意識の向上を図る。	
	保健衛生・特別支援教育	【保健衛生】 (つなぐ) 生徒が日々健康、安全に学校生活を送れるよう、保健衛生上の情報発信に努めるとともに、各生徒の学校生活、宿泊行事等における留意事項の把握、および情報共有を各学年団とスムーズに行っていく。 【特別支援】 (自立・傾聴・つなぐ) 特別支援を必要とする生徒について、関係する先生方と情報を共有し、チームとして該当生徒のサポートを行う環境作りを行う。またこの支援活動を通じ、生徒自身の自立を促す。	
	情報環境整備	・コンピュータの校内ネットワークの整備。 ・ネットワーク運用に際しての規定の整備。 ・セキュリティ対策の促進。	
教務課	年間目標	1. 「わかりやすい授業」「生徒を引きつける魅力ある授業」「規律ある授業」を実践する。生徒が主体的に活動した授業実践を全体で共有し、対話的で深い学びを実現する。(傾聴・つなぐ) 2. 社会との関連を意識した授業展開を図ることで、学習内容に対する動機づけを行い、基礎力の定着を図り、主体的な学びの姿勢を育てる。(自立・つなぐ) 3. 授業において興味関心を抱かせ、また、家庭学習課題の内容や提出方法を工夫することによって、家庭学習の充実を図り、柔軟な思考力および主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。(自立・つなぐ)	
	総合学習総合探究	教科の枠を超えた横断的・総合的・探究的な学習を目指す。 (中) 育成目標: つなぐ 総合文化発表会を念頭に、①課題設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の学習活動を目指す。 学年テーマ: 1年「自分を知る」「社会を知る」、2年「職業研究」、3年「修学旅行に向けての研修」 (高) 育成目標: 自立 全体目標: 「進路意識の啓発・高揚」。多様な文脈の中で主体的・探究的な学びの姿勢を養成する。 学年テーマ: 1年「自己と他者を見つめて」、2年「修学旅行研修」「進路意識の具体化」、3年「希望進路の実現に向けて」	
生徒課	年度目標	1. 中学生・高校生としての常識と規範意識を持ち、コミュニケーション能力の高い自立した生徒を育成する。(自立・傾聴) 2. 中学・高校ともに男女共学を踏まえた学校生活の安定を図る。 3. 中学・高校ともに生徒会活動の自主的活動を促し、学校行事の成功を期す。(つなぐ) 4. 部活動の活性化と中高一体の指導体制安定化。(つなぐ)	
	具体的課題	1. 生活指導(頭髪・服装)、交通指導の徹底 2. 体育祭・文化祭の中高一体化の深化 3. クラブ活動の活性化と中高部活動指導体制の整備 4. 通学バッグ(A・B・C)の運用に関するルールの周知徹底 5. 「いじめ」未然防止を目指す(学校生活アンケート実施) 6. 盗難防止の徹底 7. 校内美化の推進・マナーの徹底	
	重点的な取り組み	1. 学校に校則をはじめとしたルールが何故あるのか、生活指導上のルールの必要性や意義について生徒に語りかけ、生徒の理解を促す。 2. 生徒一人一人に向き合い、優しさと厳しさ、熱意をもって対応すること。 3. 服装や頭髪のだらしない生徒、態度に問題のある生徒についてはその時で直ちに指導する。現場主義の徹底。 4. 生徒会活動の組織的な指導に基づく、自主的な企画・運営を図る。特に体育祭・文化祭。 5. 部活動の目標設定。	